

# 3 部材管理

**Q.** 社員が勝手に仕事に使うため部品等を持ち出し、在庫が把握できていない。どうすればいいか？

**要旨** 部材は会社の資産ですので管理は非常に重要です。部材管理ができていない企業には、5S活動の見直し、ルールづくり、教育、責任者の任命などをアドバイスします。また、現品管理、棚卸についても重要性を認識してもらい、管理体制の構築が必要になります。棚卸は年二回以上実施するのが理想的です。

## 解説

### 1. 5S活動

5S活動とは、整理・整頓・清掃・清潔・しつけを意味し、生産現場における、工場改善の基本となる考え方です。製造業にとって物品管理は基本ですが、これができていないということは5S活動も十分に浸透していないと推測できます。どんな改善活動でも、5S活動はベースとなりますので、これを機に基礎から改善を図っていきます。

整備、運用ルールの策定、責任者の設置をします。また、IT活用も有効な対策になりますが、ITは業務ルーチンが確立して初めて機能します。

### 2. 現品管理

現品管理は在庫だけでなく、品質、生産効率にも影響を及ぼします。もし、勝手に持ち出した材料が異品だった場合は工程に大きな混乱を及ぼしますし、市場まで流出した場合は顧客からの信頼を失います。材料がいつも同じ場所になれば、部品を探すという付加価値を生まない作業に時間をかけることになります。

現品管理の基本業務は、①受入、②保管、③出庫、払出、④返却、⑤返品、⑥棄却です。これらの業務ルーチンを確立する必要があります。伝票、帳票の

入出庫処理	ポイント
受入	・ 員数、品質の確認
保管	・ 置き場所 ・ 保管台帳 ・ 定期棚卸 ・ 容器の設置
出庫、払出	・ 払出場所、方法、担当者の明確化
返却	・ 返却の確実化、迅速化
返品	・ 手順の策定と遵守 ・ 台帳の記帳
棄却	・ 手順の策定と遵守 ・ 目で見える管理
その他	ITCの活用

# 現品管理の徹底

## ＜ご提案のポイント＞

- ・ 5S 活動を徹底します
- ・ 現品管理を行うため、伝票やルールを作成します。
- ・ 部材管理の重要性を社員に教育します。
- ・ 現品管理責任者を選定します。
- ・ 棚卸を年二回以上行います

## 1. 5S 活動の見直し

仕事のためとはいえ、会社の資産である部材を、従業員が勝手に持ち出せる状況は企業としての管理が不十分と言わざるを得ません。5S 活動はきちんと行われているでしょうか。再度 5S 活動の徹底を検討することをお勧めします。

## 2. 現品管理を確実に行う

現品票、入庫票、出庫票など伝票を運用します。検収、入庫、払い出し・出庫、棚卸における記帳や伝票処理は必ず行うようにルール化します。また、製造時の部品のキット化や仕損による代品要求は仕損品との物々交換にて応じるなどのルールにより気軽に部材を持ち出す意識を改善します。

## 3. 社員の教育

部材は会社の資産であること、在庫が不明確であることによる納期遅延や過剰在庫のリスク、それらのリスクが及ぼす会社への影響度への理解とルール遵守について教育を行います。

## 4. 倉庫責任者の選任

現品管理の徹底のため、現品管理の責任者を置くことも有効です。取り扱う物品が多くなければ兼任でかまいません。責任者の承認を得てから、入出庫や移動を実施するようにします。

## 5. 棚卸の実施

棚卸とは、製品や材料・部品など現物の種類、品目や数量を一定期間ごとに調査し、伝票や帳票（またはシステム）と照合することをいいます。多くの企業では決算期に棚卸を行っていますが、そうすると決算期が過ぎてはじめて利益が判明します。期の途中でも利益額の目安がつかめるよう、年二回の棚卸を試みましょう。